

生長量が増加する2月の施設管理

2月は寒さのピークを迎えますが、日射量（太陽からの放射エネルギー量）は図1のように12月下旬に比べ、徐々に増加します。それにより生育量が増加するため、今後の施設野菜は、厳寒期の管理から春に向けて、管理を変更する必要があります。

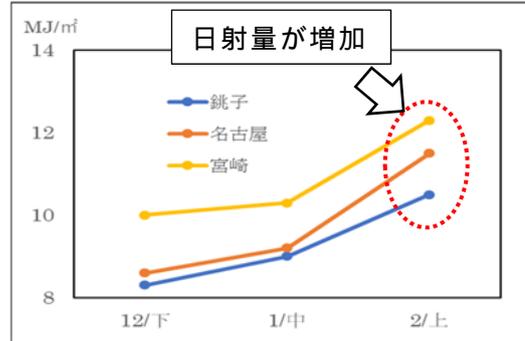


図1 各地の日射量の推移 (気象庁)

1. 2月からの栽培管理

生育が速まることで、蒸散量も増加します。そのため水分が不足すると、しおれや生理障害の発生が多くなります。日射量に合わせ天候も見ながら、かん水量を増加させてください。注意点として、急激な水分増加は根痛みや果菜類では裂果の原因になります。少量多回数で徐々に増加することがポイントです。

かん水時には、マグショット併用も効果的です。苦土の効果で葉色を長期間維持するため、日射量が増加する時期からの光合成を最大限に高め、生産される糖分が増加します。生長点、果実、根など各部位の分配量も増加するため、十分な生育量を確保できます。

かん水量の増加とマグショットの積極施肥を行い、本格的な春を迎える準備をしっかりと行ってください。

2. マグショットの施肥量

肥料名	施肥方法	施肥量・倍率	施肥間隔
マグショット	かん水施肥	3～5kg/10a	5～7日おき
	葉面散布	500～800倍	3～4日おき

多木有機液肥またはアミシャワーの混合施肥で、苦土吸収量が増加します。

【公式 YouTube チャンネル(肥料の寺子屋)】 チャンネル登録をお願いします。👁👁👁

ホームページ <https://www.takichem.co.jp/> メールアドレス aguri@takichem.co.jp

